

「読書感想画中央コンクール」千葉県入賞 作品展を開催しました（中央図書館）

「読書感想画」は、読んだ本の感動を絵で表現する活動です。1983（昭和 58）年に近畿地域から始まり、1989（平成元）年からは毎年「読書感想画中央コンクール」が開催されています。

中央図書館では、平成 30 年度の「第 30 回読書感想画中央コンクール」に千葉県から入賞した県内の小・中学生、高校生の作品計 15 点を展示しました。

このコンクールは、公益社団法人全国学校図書館協議会、毎日新聞社、および実施都道府県学校図書館協議会の主催で、子どもたちの読書力、表現力を養い、読書活動を振興することを目的に開催されています。指定図書を読む部門と自由読書の部門があります。学校単位で参加し、審査で選ばれた県の代表作品が、中央コンクールに出展されます。

今回初めて、審査後県内に戻ってきた作品を展示する機会を、中央図書館で設けることができました。

『ヒトラーと暮らした少年』（ジョン・ポイン著 あすなろ書房 2018）を題材にして優良賞を受賞した作品などの力作と、題材になった本を並べて展示しました。

展示期間中は、来館者が足を止めて作品に見入っている姿や、本を手にとって見られる姿が見られ、とても好評でした。



小学生の作品 8 点
（展示期間 2019 年 12 月 13 日～28 日）



中学生・高校生の作品 7 点
（展示期間 2020 年 1 月 5 日～19 日）

この件についての問合せ先
中央図書館 児童資料室
電話 043-222-0116